

5. 調査研究課題について

綾瀬川清流ルネッサンスⅡ計画では、計画目標を達成するための水環境改善施策の計画とともに、さらに綾瀬川の水環境改善を推進していくための事項として調査研究課題が示されていた。

清流ルネッサンスⅡ実施期間中の調査研究課題の対応状況等について整理する。

(1) 親水空間の整備

水辺に触れ親しめる綾瀬川を目指し、流域内の適地を対象とした水辺の親水空間の整備を積極的に行っていくものとして、①ラグーン脇の空き地の活用、②浄化施設と連携した空間整備、③親水公園の整備が課題として挙げられている。

1) ラグーン脇の空き地の活用

綾瀬川本川の松原大橋下流付近に整備されたラグーン脇の空き地を利用して、階段護岸の整備や休憩施設を整備して水辺に親しめる空間整備を実施した。

2) 浄化施設と連携した空間整備

桑袋浄化施設の浄化水の一部を桑袋ビオトープに導入し、ビオトープの水量、水質の維持を図っている。浄化施設と連携したビオトープの整備により、水辺に親しめる空間整備を推進した。

3) 親水公園の整備

荒川左岸北部流域下水道の終末処理場である元荒川水循環センターは、綾瀬川の起点という象徴的な場所に位置している。また、元荒川水循環センターからの試験放流の位置付けもあることから、この周辺に親水水路を活用した親水公園の整備が考えられる。

(2) 水循環を考慮した下水処理水の適正放流

元荒川水循環センターでは非灌漑期における綾瀬川の水量維持の観点から、試験放流について実施検討が行われており、今後もその適正放流を維持する方向で検討されている。

(3) 綾瀬川の流入水路等における浄化対策

清流ルネッサンスⅡ期間において新川において水質浄化施設設置に向けた浄化実験の実施、出羽堀、古綾瀬川の流入水路の負荷削減を目的とした簡易浄化実験を行ってきた。

また、綾瀬川の水質汚濁の原因である流入支川・水路に対して現在8つの浄化施設が継続的に稼働しており、綾瀬川の水質改善を図っている。

清流ルネッサンスⅡの取組みの推進により、流入支川・水路の水質は改善されてきており、また綾瀬川本川の水質も改善されている。今後は、綾瀬川本川の水質変化に応じて、浄化実験の成果、稼働施設の実績データを活用した検討を行う。

(4) 雨水浸透施設等の設置

綾瀬川は源流に山地を有しないため自流量が少ないことから、流量の維持を図るための地下浸透量の確保対応策（雨水浸透施設の設置や浸透性舗装の採用など）が必要である。綾瀬川流域での実績は以下の通りであり、対応策が実行されている。

- ・八潮市、鳩ヶ谷市、葛飾区では、雨水浸透ますの設置
- ・蓮田市、八潮市では新築する際には雨水浸透ますの設置指導
- ・八潮市では開発行為に対して雨水貯留施設の設置の指導及び補助を実施
- ・埼玉県、八潮市では管理用道路（歩道）に透水性舗装の整備を推進

(5) 流域住民意見を集約するシステム作り

綾瀬川の水環境改善状況の把握・評価を行うために、より広く、多くの住民の声を取り入れていく必要がある。

清流ルネッサンスⅡ期間中に水環境モニター制度を創設し、毎年水環境モニター交流会を実施することによって、流域住民の声を集約するシステムを構築した。また、水環境モニターが中心となって「水環境モニター会報誌」を作成し、水環境改善の状況、流域住民の要望に関する広報活動を展開した。

今後も水環境モニター制度を継続していくことが必要である。

(6) 綾瀬川における望ましい流量について

綾瀬川の流量観測点は堰橋であり、水の循環・動きに関する情報が乏しい状況であるため、水質予測モデルにより綾瀬川の水収支について検討した。

(7) 新たな水質問題について

綾瀬川では、有機物による水質汚濁とともにダイオキシンや環境ホルモン等が比較的高い濃度で検出されている。ダイオキシンや環境ホルモンについては、継続的に測定を継続しておりその測定結果に基づき適切な対応を図っている。

(8) 水循環に関する総合施策の検討

水質汚濁や化学物質等による汚染、綾瀬川の水辺空間の活用、生物の生息環境の保全・創出、雨水の有効利用や地下水浸透による洪水防止、地下水の適正利用等による地盤沈下対策、更には渇水時や震災に備えた危機管理対策など、水循環に関する施策は相互に関連性を有している。

清流ルネッサンスⅡ期間中には上記の施策を推進してきた。今後必要に応じて、関係機関との調整を図り水循環に関する総合的な施策の検討を進める。

(9) 生物に優しい川作り

清流ルネッサンスⅡ期間中に水生生物の生息及び生育環境の保全・創出施策として、以下の施策が実施された。

- ・多自然川づくりの実施（末田落しの改修工事に合わせた多自然護岸整備）
- ・ビオトープの整備（大曾根ビオトープ、桑袋ビオトープの整備）

上記は綾瀬川の特徴を考慮したうえで綾瀬川にふさわしい実施可能な工法を実施したものである。

(10) 綾瀬川における新たな水文化の創出

清流ルネッサンスⅡで計画した施策の実施に伴い、水質汚濁の改善、河川環境の整備、水辺へのアクセス性の向上など良好な水環境への改善が図られ、今後、都市域における貴重な水辺空間としての活用、役割が期待される。

水環境モニター制度や流域住民の綾瀬川に利用機会が多くなり綾瀬川の関わり方も変化してきている。また、大曾根ビオトープ、桑袋ビオトープ等は環境教育の場として地域に根付いた施設となっている。